

感謝の心をこめて

Challenge & Smile



2019年7月25日

No. 19-228

株式会社いよぎん地域経済研究センター

## 県内大学生の暮らしぶりや就職に対する意識調査について

～強まる県外志向、高まる民間人気！～

株式会社いよぎん地域経済研究センター（略称IRC、社長 重松 栄治）では、このたび、県内大学生へのアンケート結果を取りまとめましたので、下記のとおりお知らせします。なお、詳細は2019年8月1日発行の「IRC Monthly」2019年8月号に掲載いたします。

記

### 【調査要旨】

- ・ アンケートによる月間収入総額の平均は9.9万円と、前年から横ばいとなった。自宅生が7.0万円と前年より減少したものの、自宅外生は11.9万円で前年を上回った。また、月間貯蓄額の平均は過去最高の2.3万円となった。
- ・ 就活準備を始める時期については、「3回生前期」と回答した学生が最も多く、4割強を占めた。「3回生後期」と回答した学生も3割強となり、多くの学生は3回生のうちに準備に取り掛かっている。
- ・ インターンシップに「参加したことがある」「今後参加したい」と回答した学生の割合は約9割となった。ほとんどの学生が就活を行う上では必須だと考えている。
- ・ 希望就職先は、文系・理系ともに「公務員」が最も人気だった。しかし、2016年の調査と比較すると希望する学生の割合は低下しており、学生優位の売り手市場を背景に、民間企業を希望する学生が増加しているものと推測される。
- ・ 就職後の働き方については、「機会があれば転職したい」「キャリアアップのため、積極的に転職したい」という学生が過半数を占め、「最初の就職先で定年まで働きたい」という学生を上回った。条件やタイミング次第で転職を選択肢に含める学生は少なくない。
- ・ 県内大学生が県内で就職を希望する割合は45.3%と半数を下回った。県内出身者は約7割が県内での就職を希望しているものの、県外出身者では1割にも満たなかった。

以上

私たちはチャレンジします。みなさまの笑顔のために。

NEWS RELEASE

株式会社 伊予銀行 愛媛県松山市南堀端町1番地 〒790-8514 TEL(089) 941-1141

IRC では、県内大学生の暮らしぶりを把握するため 2009 年からアンケートを実施している。以下は本年の結果である。

### アンケートの概要

時期：2019 年 4 月上旬～6 月下旬  
 対象：愛媛大学法文学部、社会共創学部、理学部、農学部の学生  
 松山大学経営学部、経済学部の学生  
 方法：アンケート用紙を配付し、その場もしくは後日回収。無記名方式。  
 回答者数：390 人

### 回答者属性

大学	愛媛大学	67.4%	松山大学	32.6%
性別	男性	56.2%	女性	43.8%
学年	1回生	0.0%	2回生	36.4%
	3回生	53.1%	4回生	9.5%
	その他	1.0%		
文系・理系	文系	71.3%	理系	28.7%
出身地	愛媛県内	62.9%	四国3県	10.4%
	中国・九州	17.1%	近畿	4.9%
	関東	1.6%	その他	3.1%
住まい	自宅	40.9%	自宅外	59.1%

注：集計は不明分を除く。また、小数点以下第2位を四捨五入して表記しているため、内訳の合計が100%にならないことがある(以下、同じ)。

### 1. 月間の収支状況

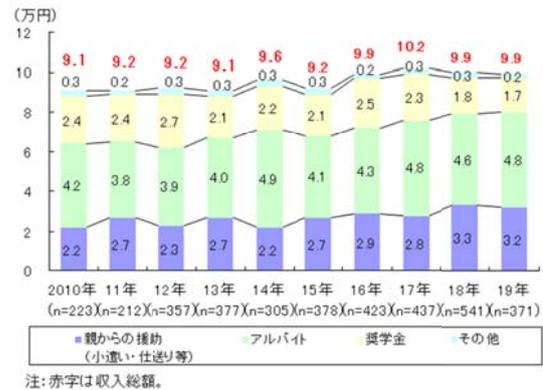
#### (1) 収入状況

##### ～自宅生は減少、自宅外生は増加～

月間収入総額の平均は前回調査から横ばいの 9.9 万円となった。内訳をみても、大きな変動はなかった(図表-1)。

自宅生と自宅外生を比較すると、自宅生は「アルバイト」(前年比+0.4 万円)を除く項目が減少し、総額は 7.0 万円(同▲0.2 万円)と減少した。一方、自宅外生は「親からの援助(小遣い・仕送り等)」(同+0.5 万円)や「奨学金」(同+0.3 万円)が増加し、総額は 11.9 万円(同 0.6 万円)と増加した(図表-2)。

図表-1 月間収入総額とその内訳の推移



図表-2 毎月の平均収入額

(単位：万円)

	全体	自宅生 (n=149)	自宅外生 (n=216)
収入総額	9.9 (0.0)	7.0 (▲0.2)	11.9 (+0.6)
親からの援助 (小遣い・仕送り等)	3.2 (▲0.1)	0.3 (▲0.1)	5.3 (+0.5)
アルバイト	4.8 (+0.2)	5.5 (+0.4)	4.2 (▲0.1)
奨学金	1.7 (▲0.1)	1.0 (▲0.5)	2.2 (+0.3)
その他	0.2 (▲0.1)	0.1 (▲0.1)	0.2 (▲0.1)

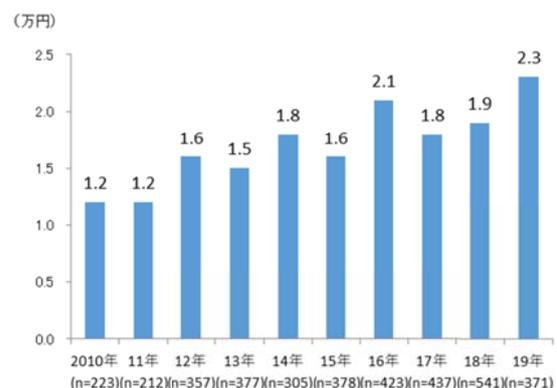
注：各数値は全回答を平均したもの。また、小数点第2位以下を四捨五入して表記しているため、合計と一致しないことがある。( )内の数値は前年比。

### (2) 貯蓄状況

#### ～月間貯蓄額は過去最高を記録～

収入額は横ばいだったが、支出額が減少したため、月間貯蓄額の平均は前年から 0.4 万円増加し、調査開始以来最高額の 2.3 万円となった(図表-3)。

図表-3 月間貯蓄額の推移



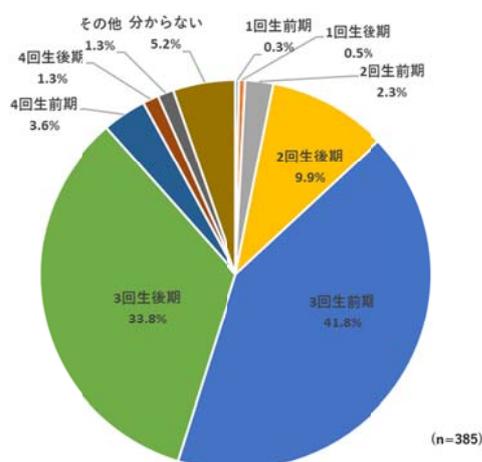
## 2. 就職に対する意識調査

### (1) 就活準備を始める時期

#### ～最も多いのは3回生前期～

自己分析や業界研究などの就活準備をいつから始めるか尋ねたところ、「3回生前期」(41.8%)が最も多く、続いて「3回生後期」(33.8%)となり、3回生のうちに準備に取り掛かる学生が大半を占めた(図表-4)。

図表-4 就活準備を始める時期

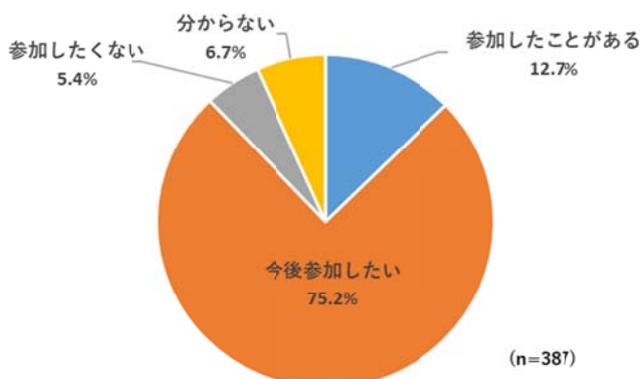


### (2) インターンシップへの参加意欲

#### ～9割が参加を希望～

インターンシップへの参加意欲を尋ねたところ、「参加したことがある」「今後参加したい」と回答した学生は全体の約9割に上った(図表-5)。

図表-5 インターンシップへの参加意欲



### (3) 希望就職先

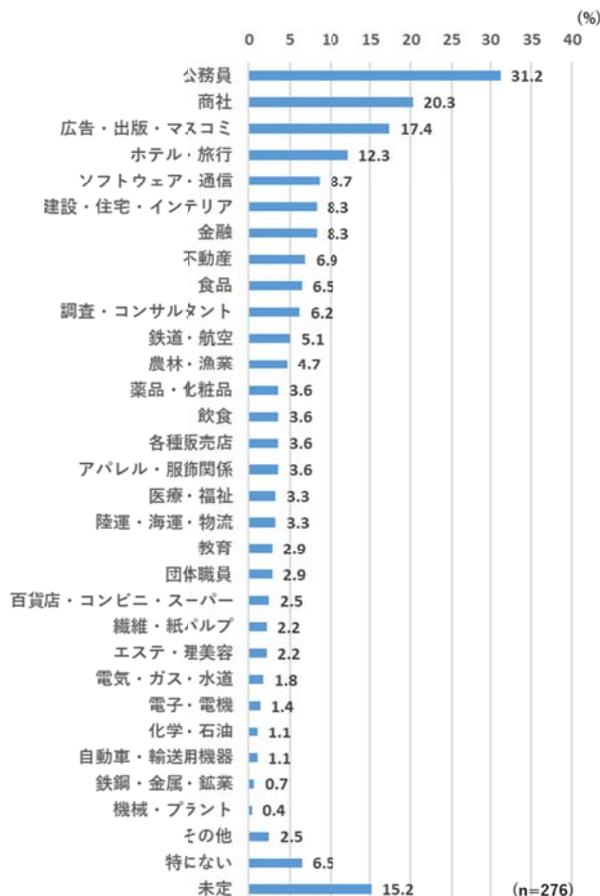
#### ～文系・理系ともに公務員がトップ～

就職先の希望を尋ねたところ、文系・理系ともに「公務員」(文系:31.2%、理系:35.7%)が最多となった(図表-6、7)。しかし、同様の調査を行った2016年(文系のみ:40.6%)と比較すると、その割合は低下しており、学生優位の売り手市場を背景に民間志望の学生が増加したと推測される。

文系・理系別に他の業種についてみると、文系では「商社」(20.3%)や「広報・出版・マスコミ」(17.4%)が人気だった。

理系では「農林・漁業」(21.4%)、「食品」(13.4%)、「ソフトウェア・通信」(11.6%)などが上位で、アンケートを実施した学部(理学部・農学部)の特徴が色濃く出る結果となった。

図表-6 文系の就職希望業種(複数回答)



図表－7 理系の就職希望業種（複数回答）

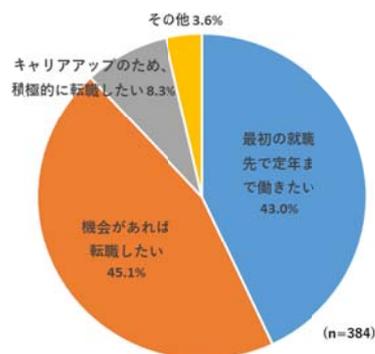


(4) 就職後の働き方

～半数の学生が転職も視野に入れる～

就職後の働き方について尋ねたところ、転職も視野に入れる（「機会があれば転職したい」「キャリアアップのため、積極的に転職したい」の合計）学生が53.4%と過半数を占め、「最初の就職先で定年まで働きたい」（43.0%）を上回った（図表－8）。

図表－8 就職後の働き方



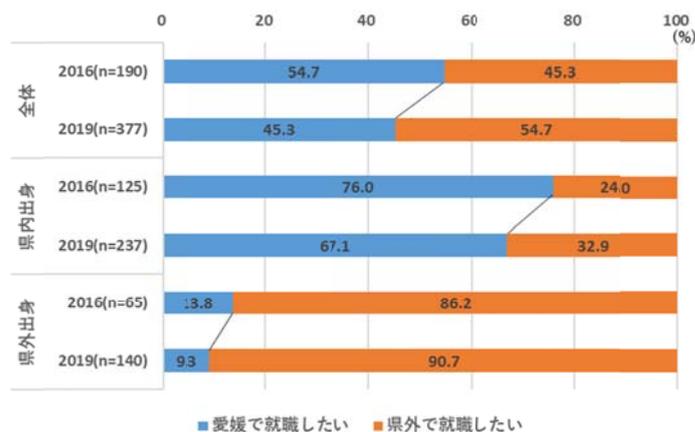
(5) 就職希望地域

～強まる県外志向～

就職するなら愛媛か県外かを尋ねたところ、「愛媛で就職したい」が45.3%、「県外で就職したい」が54.7%となった。出身地別にみると、愛媛出身者は約7割が愛媛での就職を希望しているのに対し、県外出身者で愛媛での就職を希望する学生は1割にも満たなかった（図表－9）。

2016年の調査と比較しても、愛媛出身者、県外出身者ともに「県外で就職したい」の割合が高まっており、県外志向が強まっていることを示す結果となった。

図表－9 どこで就職したいか



おわりに

今回のアンケートは学生優位の売り手市場と言われるなかでの実施となったが、就職についての自由回答欄には「不安」「大変そう」などの意見が並び、楽観視している意見は見当たらなかった。

現在就活を行っている4回生からは「もっと早くから準備、調査をして就職先を絞っていたら、高いモチベーションで学業、スキルアップに取り組めていた」と思い、後悔しているなどの意見が寄せられた。これから就活が本格化する学生には、ぜひ先輩の話に耳を傾けてもらいたい。そこには、これから自分が行うことのヒントが詰まっているはずだ。しっかりと準備を行い、悔いのない就活を行ってほしい。

(岩本 卓也)